中央図書館の開館前からお世話になっているお二人に、図書館に対する思いなどを伺いました。

小苅米さんは、図書館の事業や方針などについて話し合う「図書館協議会」の会長です。教育委員を務めていたころから、図書館の事務・事業に対してとても熱心であり、同協議会の初代会長に就任していただきました。

図書館協議会会長　小苅米　清弘さん

中央図書館の40周年を節目として、これからの図書館に対する思いを市民の立場から2つ伝えます。

1つ目は、「一歩踏み出した企画」の必要性です。図書館や博物館は、「自分が実際に体感できる市の行政の最先端」だと思います。その点を考慮し、例えば40周年を記念した講座を開き、市民を呼び込み図書館の存在意義を話すような、一歩踏み出した企画があればうれしいです。図書館を身近に感じてもらうには、図書館側から踏み出すことが大事なのです。

2つ目は、「『読書の清瀬』のイメージを広げ、清瀬を盛り上げる」ことです。市のイメージの一つとして、「読書の清瀬」のイメージとその実績を上げる上で、図書館の存在は重要です。読み聞かせはイメージを上げる大切な行事の一つですが、イメージの他に実際に実績を上げるなかで、清瀬の図書館の存在は非常に大きく、今後も市立図書館が地域社会に貢献するべきだと思います。

酒井さんは、中央図書館開館前から家庭文庫を開き、地域の方々へ本の面白さを伝えています。中央図書館の開館にあたっては、どんな図書館にするかの検討段階からご協力をいただいてきました。

地域文庫主催者　酒井　美加子さん

幼少から児童書好きで、家に絵本がたくさんあったので、図書館開館前に家庭文庫をやっていました。当時は「本」という言葉を聞くだけでワクワクする時代でしたので、登録者数は150人程で、子どもたちも積極的に本の整理などを手伝ってくれました。家庭文庫を行っていた関係から、中央図書館の設立の際は検討段階から携わらせていただきました。例えば、車いすの方も利用しやすいよう、入り口付近にバリアフリーを考慮したスロープを設置するよう要望し、実現してもらいました。

長年、図書館に関わるなかで、元町子ども図書館にお話部屋ができたことが印象深く、親子で本選びをしていたりする光景を見ると、図書館が身近に感じられます。

今後も、「子どもからお年寄りまで、市民に密着した図書館で、お話会などが身近に感じられる」ような館であってほしいですし、高齢者の方が足を運び、自分で本を選びたくなるような工夫もしてほしいです。

開館40周記念事業～特別展示「ベストセラーで見る40年」

図書館が開館して40年。その年だけのブームで終わってしまった本、末永く読まれ続けている本、さまざまなベストセラーを展示して40年を振り返ります。

日時　8月15日(金)～9月14日(日)午前10時～午後5時（月曜休館。水・木曜日は午後7時まで）
場所　中央図書館2階読書室

40年間のベストセラー一覧（昭和49年～平成26年）

年	書名	著者	図書館のあゆみ
昭和49	かもめのジョナサン	リチャード・バック	8月　中央図書館開館
50	播磨灘物語（上・中・下）	司馬遼太郎	
51	限りなく透明に近いブルー	村上　龍	4月　田無市との間で相互貸借事業開始 8月　元町図書館開館
52	間違いだらけのクルマ選び（正・続）	徳大寺有恒	8月　下宿図書館開館
53	人間革命（10）	池田大作	
54	算命占星学入門	和泉宗章	
55	蒼い時	山口百恵	
56	窓ぎわのトットちゃん	黒柳徹子	4月　田無市・保谷市・東久留米市との間で相互貸借事業開始
57	プロ野球を10倍楽しく見る方法	江本孟紀	7月　野塩図書館に初めてコンピュータシステムを導入
58	気くばりのすすめ	鈴木健二	
59	プロ野球しらなきゃ損する	板東英二	
60	スーパーマリオブラザーズ 完全攻略本	ファミリーコンピューターマガジン編集部編	1月　中央図書館にオフィスコンピュータを導入し、書誌データの作成開始
61			
62	サラダ記念日	俵　万智	
63	こんなにヤセていいのかしら	川津祐介	
平成元年	ＴＵＧＵＭＩ	吉本ばなな	
2	愛される理由	二谷友里恵	
3	Santa　Fe	宮沢りえ（篠山紀信撮影）	10月　多摩六都　公立図書館の広域利用開始
4	それいけ×ココロジー（1・2・3）	それいけ！！ココロジー編	6月　全館　オンラインシステム開始
5	人間革命（12）	池田大作	
6	日本をダメにした九人の政治家	浜田幸一	9月　竹丘図書館　開館
7	遺書	松本人志	1～6月　中央図書館が火災のため休館 10月　駅前図書館開館
8	脳内革命	春山茂雄	
9	ピストロスマップ完全レシピ	ピストロスマップ制作委員会編	
10	新・人間革命（1・2・3）	池田大作	
11	五体不満足	乙武洋匡	
12	だから、あなたも生きぬいて	大平光代	9月　多摩六都・図書館共通利用カード発行開始
13	チーズはどこへ消えた？	スペンサー・ジョンソン	
14	ハリーポッターと賢者の石 ハリーポッターと秘密の部屋 ハリーポッターとアズカバンの囚人 ハリーポッターと炎のゴブレット（上・下）	Ｊ．Ｋ．ローリング	6月　図書館ホームページ開設 8月　Webからの所蔵資料の予約受付開始
15	バカの壁	養老孟司	11月　ブックスタート事業開始
16	ハリーポッターと不死鳥の騎士団（上・下）	Ｊ．Ｋ．ローリング	
17	頭がいい人、悪い人の話し方	樋口裕一	
18	国家の品格	藤原正彦	
19	女性の品格 装いから生き方まで	坂東眞理子	1月　携帯電話からの蔵書検索、予約サービス開始
20	ハリー・ポッターと死の秘宝	Ｊ．Ｋ．ローリング	
21	1Q84	村上春樹	4月　清瀬市民センター（現清瀬けやきホール）再整備事業に伴い元町図書館休館
22	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎夏海	12月　元町図書館の名称を元町こども図書館に変更しリニューアル開館
23	謎解きはディナーのあとで	東川篤哉	4月　Webからの未所蔵資料のリクエスト受付開始
24	聞く力	阿川佐和子	
25	医者に殺されない47の心得	近藤　誠	9月　中央図書館に「清瀬市の作家コーナー」設置
26			8月　中央図書館開館40周年

10月5日(日)　10月18日(土)

阿刀田高氏と内藤直子氏による　講演会

①阿刀田高氏：第81回直木賞受賞、山梨県立図書館館長
②内藤直子氏：東京子ども図書館所属。読み聞かせなどの児童サービスの専門家

日時　①10月5日(日)午後2時～3時30分②10月18日(土)午後2時～3時
場所　いずれもアミューホール
※詳細が決定次第、市報または市ホームページなどでお知らせします。

中央図書館
伊藤館長

竹丘夏の子ども会

ぬいぐるみお泊まり会

下宿こども読書の日

特集 Special Topics

中央図書館開館40周年記念

～図書館の歴史を振り返る～

中央図書館は、昭和47年に実施した市政世論調査の際に、多くの皆さまから寄せられた開設希望の声にお応えするため、当初の計画を早めて昭和49年8月15日に、市内最初の公立図書館として開館しました。

開館にあたっては、都立図書館の職員や市議会議員、地域文庫や読み聞かせの活動をしている方の意見もお聞きし、子どもからお年寄りまで、誰でも気軽に立ち寄り、市民の本棚として親しんでいただける図書館を目指しました。

今号では、40周年を迎えた中央図書館の歴史を振り返ります。

問合せ　中央図書館☎493・4326

	昭和49年度	平成25年度
市の人口	59,392人	74,247人
図書館数	1館	6館
所蔵数	27,815点	427,743点
登録者数	12,430人	77,594人
年間貸出数	121,998点	619,719点
累計貸出数	121,998点	19,993,570点
年間予約数	未実施	108,491点

いずれも3月31日時点

昭和49年～　図書館の出発

中央図書館は、当初約2万冊の蔵書で出発しました。現在では、約12万8千点（11万6千冊の図書と1万2千点の視聴覚資料）の資料があります。

市内全図書館では約42万8千点の資料があり、今年4月には、40年間の市内全図書館での総貸出点数が2千万点を超え、6月30日時点で2千138万813点の資料を皆さんにご利用いただいています。

昭和51年～　地域図書館の開館と図書館ネットワークの構築

地域図書館設立にあたっては、市の面積を考慮し、移動図書館ではなく、徒歩や自転車で来館できる「小さくても地域に密着した図書館サービスの提供」を目指し、昭和51年、清瀬駅に近い清瀬市民センター（現清瀬けやきホール）に元町図書館（現元町子ども図書館）が開館しました。

その後、昭和52年に下宿図書館、同57年には野塩図書館、平成6年には竹丘図書館、同7年には駅前図書館が開館し、清瀬市立図書館ネットワークが完成しました。

駅前図書館の開館に伴い、元町図書館は児童書の専門図書館として生まれ変わり、平成22年度には館内の書架やテーブルをすべて児童用に替え、名称も「元町こども図書館」と改めました。

開館当初から、各図書館が独立して運営するのではなく、資料の収集は中心館である中央図書館が担い、職員の配置も全館の職員で補完するネットワーク体制を構築し、全6館が均一のサービスを提供できるよう心掛けています。

元町子ども図書館再開記念の「おはなし会」

昭和57年～　コンピューターシステムの導入

開館当初は、貸し出しを記録する際、ビデオテープに貸し出す本と借りる人の利用カードを一緒に撮影して保存し、返却期限を過ぎた段階でビデオテープと照合し、返却した方のテープを消去する「ビデオチャージ貸出システム」を採用していました。また、所蔵資料を体系的に収集し保存するため、図書台帳としての目録カードを職員が1点ずつ手作業で作成し、主題順と書名順に配列をしていました。

表紙の画像が表示され、本のイメージが鮮明になった利用者用検索機ＯＰＡＣ

当時、一冊の本に対して所蔵の有無を調べるには、この目録カードを一枚ずつ見る以外に方法がなく、非常に時間がかかりましたが、昭和57年の野塩図書館開館後は、コンピューターシステムを導入し、平成4年に全館のオンラインシステムが完成しました。現在では、すべての資料がコンピュータに貸し出し記録も含め新しい情報を瞬時に得られるようになっています。

絵本などの表紙の画像を表示させるシステムを開発してもらい平成6年には、「利用者用検索機（ＯＰＡＣ）」で本のイメージが鮮明に表示されるようになりました。これは、当時のコンピューターシステム技術のなかでも最先端で、コンピューターの専門雑誌にも取り上げられました。その後、平成14年に図書館ホームページを開設し、インターネット上で市内図書館の全蔵書の検索ができるようになり、平成19年にはこれを携帯電話へ拡大しました。平成23年からは市内図書館に所蔵していない図書のリクエストを、ホームページから受け付けるサービスも実施するなど機能を拡充しています。

平成7年　中央図書館火災

平成7年1月13日、中央図書館で放火による火災が発生し、1階開架室に収蔵していた図書約9万冊が被害を受けました。

この4日後に阪神淡路大震災が、約2か月後には地下鉄サリン事件が起き、社会全体が騒然とするなか、図書館職員は、すすで汚れてしまった図書を一冊でも多く救おうと、毎日手を真っ黒にして清掃に明け暮れました。そして、市民の方々からの寄贈や他自治体の図書館からの協力もあり、7月に再開することができました。

昭和51年～　広域連携

開館当時、区市町村立図書館にとって相互協力といえば都立図書館から図書を借りることでしたが、昭和51年、旧田無市と清瀬市の図書館間で、その後、旧保谷市と東久留米市も加わり4市による相互貸借事業を開始しました。現在は都立図書館を介して当たり前に行われていますが、広域連携の先駆けとなった事業です。

平成3年10月には、多摩六都の清瀬市と小平市、東村山市、東久留米市、田無市・保谷市（現西東京市）の6市（現5市）の公立図書館で広域利用を開始しました。これは、5市の市民なら、どの市の図書館でも利用できるサービスです。共通利用カードを発行しており、平成24年度からは5市のすべての図書館で他の市でも使用できるようになりました。

元町こども読書の日

いろいろなサービス

図書館では貸出サービスの他にも、いろいろなサービスを行っています。

例えばハンディキャップサービスとして、障害などで来館が困難な方へ、資料の宅配や郵送を行っています。また、図書館音訳ボランティアの方により、対面朗読や音訳図書の作成も行っています。

音訳図書は、「広報東京都」が5月分からＤＡＩＳＹ（ディジー）（ＣＤ版）でも利用可能になった他、市報などの公的資料もありますので、職員にご相談ください。

児童サービスについては、図書館読み聞かせボランティアの方たちの協力で、ブックスタート事業や、各館で絵本を読み聞かせる「おはなしのじかん」「子ども会」も行っています。今年4月に元町こども図書館で行った「ぬいぐるみのお泊まり会」では、多くの子どもたちが参加してくれました。

また、携帯電話が急速に普及し、メールで用件を連絡する人が増えています。図書館でも、各種事業や新着図書情報をメールで配信するサービスを平成23年度から始めていますので、ご利用ください。

ぬいぐるみお泊まり会に参加した子どもたちのぬいぐるみ

市立図書館のこれから

インターネットでの図書の購入や電子書籍が普及し、子どもの活字離れが進むなか、公共図書館を取り巻く状況も刻々と変わってきています。市民の本棚として、本があるだけで満足していただいた公立図書館から、今後は、より良質な図書や正確な情報を収集・発信し、市民の皆さんが生活する上で生じた課題や疑問の解消に、少しでもお役に立てる存在になりたいと考えています。

また、昨年「清瀬市にゆかりの作家コーナー」として、石田波郷氏らの著作を集めたコーナーを中央図書館に設置しましたが、結核療養や病院関連の地域資料についても、市独自の貴重な文化資料として、収集・保存に力を入れていきたいと思います。50周年に向け、今以上にサービスの充実に努めていきます。